

作成日 2025 年 10 月 9 日

安全データシート

1. 【 化学品及び会社情報 】

製品名	キックボクサー細粒剤F
供給者の会社名称	丸和バイオケミカル株式会社
住所	東京都千代田区神田須田町 2-19-23
担当部門	開発本部 登録・環境グループ
電話番号 / FAX	Tel: 03-5296-2313 Fax: 03-5296-2323
推奨用途	除草剤
使用上の制限	農薬登録以外の使用は不可
整理番号	23013-01

2. 【 危険有害性の要約 】

化学品の GHS 分類(分類 JIS)

健康有害性	急性毒性(吸入)	区分 4
	眼に対する重篤な損傷性/眼刺激性	区分 2A
	生殖細胞変異原性	区分 2
	発がん性	区分 1A
	生殖毒性	区分 1B
		追加区分:授乳に対するまたは授乳を介した影響
	特定標的臓器毒性(反復ばく露)	区分 1(免疫系、呼吸器、腎臓)
環境有害性	水生環境有害性 短期(急性)	区分 2
	水生環境有害性 長期(慢性)	区分 2

GHS ラベル要素

絵表示又はシンボル



注意喚起語	危険
危険有害性情報	強い眼刺激 吸入すると有害 遺伝性疾患のおそれの疑い 発がんのおそれ 生殖能または胎児への悪影響のおそれ 授乳中の子に害を及ぼすおそれ 長期にわたる、または反復ばく露による免疫系、呼吸器、腎臓の障害 長期継続的影響によって水生生物に毒性
注意書き【安全対策】	使用前に取扱説明書を入手すること。 全ての安全注意を読み理解するまで取り扱わないこと。 粉じんを吸入しないこと。 粉じんの吸入を避けること。 妊娠中および授乳期中は接触を避けること。 取扱後は手をよく洗うこと。 この製品を使用する時に、飲食または喫煙をしないこと。 屋外または換気の良い場所でのみ使用すること。 環境への放出を避けること。 保護手袋/保護衣/保護眼鏡/保護面を着用すること。

【応急措置】	吸入した場合：空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。 眼に入った場合：水で数分間注意深く洗うこと。次にコンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。 ばく露またはばく露の懸念がある場合：医師の診察/手当てを受けること。 気分が悪い時は医師/中毒情報センターに連絡すること。 気分が悪い時は医師の診察/手当てを受けること。 眼の刺激が続く場合：医師の診察/手当てを受けること。 漏出物を回収すること。
【保管】	施錠して保管すること。
【廃棄】	内容物、容器を関連法規ならびに地方自治体の基準に従って廃棄すること。 都道府県知事などの許可を受けた専門の産業廃棄物処理業者に委託して適切に処理すること。

3. 【組成及び成分情報】

化学物質・混合物の区別	混合物
化学名又は一般名	プロスルホカルブ：S-ベンジル=ジプロピルチオカルバマート リニュロン：3-(3,4-ジクロロフェニル)-1-メトキシ-1-メチル尿素

成分及び含有量		化審法 No.	安衛法 No.	CAS No.
＜有効成分＞				
プロスルホカルブ	7.0 %		4-(6)-385	52888-80-9
リニュロン	1.75%	(3)-2193	4-(13)-44	330-55-2
＜その他＞				
鉱物質等	91.25%			
(結晶質シリカ	47.5 %)	(1)-548		14808-60-7
(ナトリウム=1,4-ビス	1.1 %)	(2)-1620	2-(4)-384	577-11-7
[(2-エチルヘキシル)		(2)-1623		
オキシ]-1,4-ジオキソ				
ブタン-2-スルホナート				

4. 【応急措置】

吸入した場合	空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させる。 気分が悪い時は医師/中毒情報センターに連絡する。
皮膚に付着した場合	直ちに、汚染された衣類をすべて脱ぐ/取り除く。皮膚を水で洗う。
眼に入った場合	水で数分間注意深く洗う。次にコンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外す。その後も洗浄を続ける。 眼の刺激が続く場合は、医師の診察/手当てを受ける。
飲み込んだ場合	直ちに医師/中毒情報センターに連絡する。口をすすぐ。 被災者に意識のない場合は、口から何も与えてはならない。

5. 【火災時の措置】

適切な消火剤	水噴霧、粉末消火薬剤
使ってはならない消火剤	棒状放水
火災時の特有の危険有害性	燃焼ガスには、一酸化炭素等のほか、窒素酸化物系のガス等の有毒ガスが含まれるので、消火作業の際には、煙を吸入しないように注意する。
特有の消火方法	消火作業は、風上から行う。 火災発生場所の周辺に関係者以外の立入りを禁止する。 消火のための放水等により、環境に影響を及ぼす物質が流出しないよう適切な措置を行う。

消火活動を行う者の特別な
保護具及び予防措置

消火作業では、適切な保護具(手袋、眼鏡、マスク)を着用する。

6. 【 漏出時の措置 】

人体に対する注意事項、
保護具及び緊急時措置

屋内の場合、処理が終わるまで十分に換気を行う。

多量の場合、人を安全に退避させる。

漏出時の処理を行う際には、必ずゴム手袋、保護眼鏡、保護衣、
マスク等を着用する。

環境に対する注意事項

流出した製品が河川等に排出され、環境への影響を起こさない
ように注意する。

封じ込め及び浄化の方法
及び機材

漏出したものをすくいとり、又は掃き集めて紙袋又はドラム等に回
収する。

7. 【 取扱い及び保管上の注意 】

取扱い

技術的対策

取扱いは、換気のよい場所で行う。

屋外での取扱いは、できるだけ風上から作業する。

容器を転倒、落下させ、衝撃を加え、又は引きずる等の乱暴な取
扱いをしてはならない。

取扱う場合は、局所排気、又は全体換気の設備のある場所を取
扱う。

安全取扱注意事項

みだりに粉じんが発生しないように取扱う。

接触回避

酸化剤との接触を避ける。

保管

安全な保管条件

直射日光を避け、換気の良い冷暗所に保管する。

安全な容器包装材料

食品や飲料から離して保管する。

製品の容器包装材料にて保管する。

8. 【 ばく露防止及び保護措置 】

許容濃度等

成分	管理濃度/基準濃度/許容濃度	出典
プロスルホカルブ	4mg/m ³ (TWA)	Syngenta
リニュロン	第3種粉じん (吸入性粉じん:2mg/m ³ 、総粉じん:8mg/m ³)	日本産業衛生学会 (2024年版)
結晶質シリカ	吸入性結晶質シリカ 0.03mg/m ³	日本産業衛生学会 (2024年版)
	0.025mg/m ³ (TLV-TWA)	ACGIH(2018年版)

設備対策

取扱いについてはできるだけ密閉された装置、機器又は局所排気
装置を使用する。

取扱場所の近くに、眼の洗浄及び身体洗浄のための設備を設置す
る。

保護具

呼吸用保護具

防じんマスク、簡易防じんマスク

手の保護具

保護手袋(不浸透性の材質のもの)

眼、顔面の保護具

保護眼鏡(側板付き普通眼鏡型、ゴーグル型)、保護面

皮膚及び身体の保護具

保護服、保護長靴

9. 【 物理的及び化学的性質 】

物理状態

固体

色

淡褐色

臭い

情報なし

融点/凝固点

情報なし

沸点又は初留点及び沸騰範囲	情報なし
可燃性	情報なし
爆発下限界及び爆発上限界 /可燃限界	情報なし
引火点	情報なし
自然発火点	情報なし
分解温度	情報なし
pH	6.4(20%懸濁液)
動粘性率	情報なし
溶解度	情報なし
n-オクタノール/水分配係数 (log 値)	情報なし
蒸気圧	情報なし
密度及び/又は相対密度	見掛け比重 1.3(20℃)
相対ガス密度	情報なし
粒子特性	180～710μm

10. 【安定性及び反応性】

反応性	情報なし
化学的安定性	通常の温度及び保管条件では安定
危険有害反応可能性	情報なし
避けるべき条件	粉じんの拡散
混触危険物質	酸化剤
危険有害な分解生成物	情報なし

11. 【有害性情報】

急性毒性(経口)	ラット LD ₅₀ : ♀>2000mg/kg(区分に該当しない)
急性毒性(経皮)	ラット LD ₅₀ : ♂ ♀>2000mg/kg(区分に該当しない)
急性毒性(吸入:粉じん)	ATEmix=4.6mg/L のため、区分 4 とした。
皮膚腐食性/刺激性	ウサギ:軽度の刺激性を示したが、分類基準に該当しない(区分に該当しない)
眼に対する重篤な損傷性 /眼刺激性	ウサギ:中等度の刺激性を示したが、投与後21日以内に消失したため、区分2Aとした。
呼吸器感作性又は皮膚感作性	呼吸器感作性 情報が十分でない(分類できない) 皮膚感作性 モルモット:感作性なし(区分に該当しない)
生殖細胞変異原性	本製品は鉱物質として天然の鉱物を含み、その中に区分 2 の石英(結晶質シリカ)を 1.0%以上含むため、区分 2 とした。
発がん性	本製品は鉱物質として天然の鉱物を含み、その中に区分 1A の石英(結晶質シリカ)を 0.1%以上含むため、区分 1A とした。
生殖毒性	本製品は生殖毒性区分 1B に分類される成分を 0.3%以上含むため、区分 1B とした。 本製品は授乳に対するまたは授乳を介した影響に関する追加区分に分類される成分を 0.3%以上含むため、追加区分とした。
特定標的臓器毒性(単回ばく露)	情報が十分でない(分類できない)
特定標的臓器毒性(反復ばく露)	本製品は鉱物質として天然の鉱物を含み、その中に区分 1(免疫系、呼吸器、腎臓)の石英(結晶質シリカ)を 10%以上含むため、区分 1(免疫系、呼吸器、腎臓)とした。
誤えん有害性	情報が十分でない(分類できない)

12. 【環境影響情報】

生態毒性	
魚類	コイ LC ₅₀ (96h): 44mg/L

甲殻類 藻類	オオミジンコ EC ₅₀ (48h):6.4mg/L 緑藻 ErC ₅₀ (72h):1.2mg/L 短期(急性):上記の値より、区分2とした。 長期(慢性):加算法により、区分2とした。
残留性/分解性	プロスルホカルブ 生分解性:易分解性ではない。 水中での安定性:分解半減期 159~279d リニュロン 水中での安定性:急性分解性なし (BODによる分解度:0%/4 weeks(METI 既存点検結果,1982))
生体蓄積性	プロスルホカルブ 生体蓄積性がある リニュロン 低い生体蓄積性(BCF=23)
土壤中の移動性	プロスルホカルブ 土壤中でわずかに移動する (消失時間 35d、消失割合:50%(DT50)) リニュロン 土壤中での移動性のデータなし
オゾン層への有害性	情報が十分でない(分類できない)

13.【廃棄上の注意】

化学品、汚染容器及び包装の安全で、かつ環境上望ましい廃棄、又はリサイクルに関する情報

内容物、容器を関連法規ならびに地方自治体の基準に従って廃棄すること。
都道府県知事などの許可を受けた専門の産業廃棄物処理業者に委託して適切に処理すること。

14.【輸送上の注意】

国連番号	3077
品名(国連輸送名)	環境有害性物質(固体)(リニュロン、プロスルホカルブ)
国連分類	9(有害性物質)
容器等級	Ⅲ
海洋汚染物質	該当
輸送又は輸送手段に関する特別の安全対策	輸送前に容器の破損、腐食、漏れ等がないことを確認する。転倒、落下、破損がないように積み込み、荷くずれの防止を確実に行う。 輸送容器は衝撃を与えないように、ていねいに取扱う。転倒したり、激突させたりしない。
国内規制がある場合の規制情報	船舶安全法、航空法の規定に従う。
応急措置指針番号	171

15.【適用法令】

該当法令の名称及びその法令に基づく規制に関する情報

農薬取締法	第23013号
化学物質排出把握管理促進法(化管法)	プロスルホカルブ(第1種) リニュロン(第1種)
労働安全衛生法	第57条 表示対象物、第57条の2 通知対象物 リニュロン 結晶質シリカ ナトリウム=1,4-ビス[(2-エチルヘキシル)オキシ]-1,4-ジオキソブタン-2-スルホナート (令和8年4月1日以降)

	プロスルホカルブ(令和9年4月1日以降)
	労働安全衛生規則第577条の2 がん原性物質
	結晶質シリカ
	労働安全衛生規則第594条の2 皮膚等障害化学物質
	プロスルホカルブ
毒物及び劇物取締法	該当なし
消防法	該当なし

16. 【 SDSの作成と改訂に関する情報を含むその他の情報 】

緊急連絡先:03-5962-9731(9時～17時 土日祝を除く)

公益財団法人 日本中毒情報センター(事故に伴い急性中毒の恐れがある場合に限る)

中毒 110 番 365 日 24 時間対応

	一般市民専用電話 (情報料無料)	医療機関専用有料電話 (1件2000円)
大阪	072-727-2499	072-726-9923
つくば	029-852-9999	029-851-9999

医療機関の方が一般市民専用電話を使用された場合も、情報料1件につき2,000円を徴収します。

記載内容は十分な配慮に基づき作成しておりますが、新しい知見により改訂されることがあります。本データシートは情報を提供するものであって、品質や安全性等に関していかなる保証もするものではありません。危険・有害性等の評価は必ずしも万全ではありませんので、取扱いには十分注意を払って下さい。また、注意事項は通常の実取扱いを対象としております。